熊取町埋蔵文化財調査報告第３７集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XVI

平成１４年　３月

熊 取 町 教 育 委 員 会

はしがき

古代から熊取野とよばれた本町域は、現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町です。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に42ヵ所を数える埋蔵文化財包蔵地があり、遺構と遺物を埋蔵しています。

熊取町では昭和60年度から国庫等補助金を受けて発掘調査を実施するようになり、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成13年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したものです。今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しまして紙上をお借りし厚くお礼申し上げます。

平成14年３月

熊取町教育委員会
教育長　甲田　太三郎

例　　言

1．本書は、平成13年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。

2．調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川　淳を担当者として、平成13年４月１日に着手し、平成14年３月31日をもって終了した。
確認調査では、調査区をカラーリバーサルフィルムと白黒フィルムで撮影し、平板で調査区位置図（平面図）を作成、調査区壁面図を作成し、記録にとどめた。
また測量作業後は必ず埋め戻して現場作業を完了した。

3．本書は、報告書の作成の都合上、平成13年４月１日から平成13年12月29日までの発掘調査成果及び、平成12年度事業で昨年「熊取町埋蔵文化財調査報告第36集」で報告できなかった平成13年１月５日から同年３月31日までの発掘調査成果（４件）を掲載する。

4．本書における図面の標高は、Ｔ．Ｐ．（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。

5．本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。

6．本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員・作業員の参加を得た。
　池上裕也、関井澄子、永橋祥行、前田公子、山本恵子
　宇沢克之、太田敏治、岡本利市、坂本善成、橋本松雄、平阪博司

7．本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳が行った。

目　次

第１章　はじめに …… 1

第２章　地理的環境と周知の遺跡 …… 1
第１節　地理的環境 …… 1
第２節　歴史的環境 …… 2
第３節　周知の遺跡 …… 4

第３章　調査成果の概要 …… 5
第１節　紺屋遺跡00－１区の調査 …… 5
第２節　東円寺跡00－14区の調査 …… 7
第３節　東円寺跡00－15区の調査 …… 8
第４節　大久保Ｃ遺跡00－１区の調査 …… 10
第５節　降井家屋敷跡01－１区の調査 …… 13
第６節　朝代北遺跡01－１区の調査 …… 14

第４章　まとめ …… 16

第１章　はじめに

平成13年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は32件（平成13年12月29日現在）であり、昨年の同時期は38件であった。

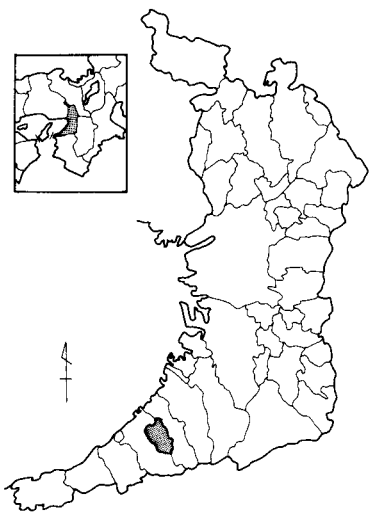
本書では平成13年度国庫補助事業として実施した、降井家屋敷跡１件、朝代北遺跡１件、平成12年度事業で実施した紺屋遺跡１件、大久保Ｃ遺跡１件、東円寺跡２件を合せた６件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成13年度国庫補助事業発掘調査一覧表

遺跡名	所　在　地	申請者名	申請面積	調査年月日
紺屋遺跡00-１区	紺屋一丁目116	中西 博司	178.90㎡	2001 0116
東円寺跡00-14区	野田二丁目2384-１	藤原　健	102.74㎡	2001 0214
東円寺跡00-15区	野田一丁目2156-８	矢倉 清・冴子	102.74㎡	2001 0328
大久保Ｃ遺跡00-１区	大久保東一丁目34-１他２筆	下中 浩文	141.66㎡	2001 0227
降井家屋敷跡01-１区	大久保中二丁目２-５	西浦 義信	238.62㎡	2001 0514
朝代北遺跡01-１区	朝代西三丁目761-３	山口 良里	120.62㎡	2001 1016～17

第２章　地理的環境と周知の遺跡

第１節　地理的環境



熊取町の位置

熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19㎢を有する。地形による面積比を見ると、山地41％、丘陵24％、段丘23％、低地12％に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約３分の２を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の４水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの潅漑用の溜め池を目にすることが出来る。

第２節　歴史的環境

町内の遺跡は現在42ヵ所を数える。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、東円寺跡の所在する熊取町野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器と石鏃が検出されているので、東円寺跡は縄文時代からの複合遺跡である。

弥生時代の遺跡も発見されていない。JR熊取駅のある大久保における駅前整備事業に伴う平成元年の発掘調査では畿内第Ｖ様式を示す土器が大量に検出され大久保Ｅ遺跡となったが、その土器は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台地区に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅している。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-１区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥Ｖ様式といわれる土師器や須恵器が出土した。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡87-１区の調査で建物４棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成11年７月熊取町七山で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が宅地開発の発掘調査で検出され、熊取町第41番目の「七山東遺跡」となった。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されていたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成８年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。野田の東円寺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡では瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度には小垣内で幅10ｍ程の溝跡（堀？）が見つかり、新たに第42番目の「小垣内西遺跡」となった。

戦国期は和田の重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土した。

江戸時代の特異な遺跡としては、五門の重要文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要文化財降井家書院周辺の降井家の屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅での調査では、実に3,000破片の土師器皿や軒丸瓦片が出土した。

熊取町遺跡分布図

N
泉佐野市
貝塚市
千石堀城跡
七山東遺跡
正法寺跡
白地谷遺跡
大久保D遺跡
大谷池遺跡
大久保B遺跡
祭礼御旅所跡
紺屋遺跡
大久保E遺跡
降井家屋敷跡
口無池遺跡
降井家書院
東円寺跡
小垣内遺跡
大久保C遺跡
中家住宅
小垣内西遺跡
中家住宅周辺遺跡
金剛法寺跡
大久保A遺跡
甲田家住宅
五門北古墳
久保城跡
五門遺跡
五門古墳
大浦遺跡
久保A遺跡
高蔵寺城跡
大浦中世墓地遺跡
久保B遺跡
城ノ下遺跡
鳥羽殿城跡
朝代北遺跡
来迎寺本堂
墓ノ谷遺跡
山ノ下城跡
花成寺跡
下高田遺跡
池ノ谷遺跡
成合寺遺跡
雨山城跡
0
2km

第３節　周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

No.	周知の遺跡名	種類	時代	地目	立地	主な成果等
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平地	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地	江戸期から明治期頃の陶磁器等出土
3	来迎寺本堂	寺院	鎌倉	宅地	丘陵腹	15～16世紀の土師器を検出
4	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	
5	甲田家住宅	建造物	江戸	宅地	平地	
6	東円寺跡	寺院跡	弥生～江戸	宅地	平地	縄文•奈良•鎌倉～室町•江戸の複合遺跡
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	
8	成合寺遺跡	墓地	室町	畑地	丘陵腹	14世紀代の600基以上の土壙墓群等検出
9	高蔵寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	土塁・堀切等の構築物を確認している
10	雨山遺跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	月見ノ亭・馬場・千畳敷の地名が残る
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	須恵器等を採取するも現在消滅
12	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
13	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
14	大浦中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	享徳４年銘(1445)の五輪塔の地輪出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	的場•矢ノ倉等の字名、瓦器片多数出土
16	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	
18	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	五門・紺屋共同墓地
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	
20	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	毘沙門堂跡、現在消滅
21	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	大森神社神宮寺、現在消滅
22	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	
23	墓ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	
24	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	敷地を区画する溝や江戸初期の陶磁器等
26	大久保Ａ遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	
27	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	
28	大久保Ｂ遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初中心の遺物出土
29	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	奈良～平安期の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	
31	大久保Ｃ遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	
32	千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	天正年間（1573～92）雑賀衆徒の城跡
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	平安末～鎌倉初の遺構・遺物検出
34	大久保Ｄ遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	13～14世紀の瓦器等出土
36	久保Ａ遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
37	大久保Ｅ遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初の遺物多数出土
38	久保Ｂ遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	13～14世紀の瓦器等出土
39	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	江戸期以降の陶磁器等多数出土
40	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	鎌倉時代以降の遺物の包含層
41	七山東遺跡	散布地	古墳～室町	宅地	平地	奈良時代の須恵器を多量に含む包含層
42	小垣内西遺跡	集落跡	奈良～江戸	宅地	平地	15～16世紀の大溝

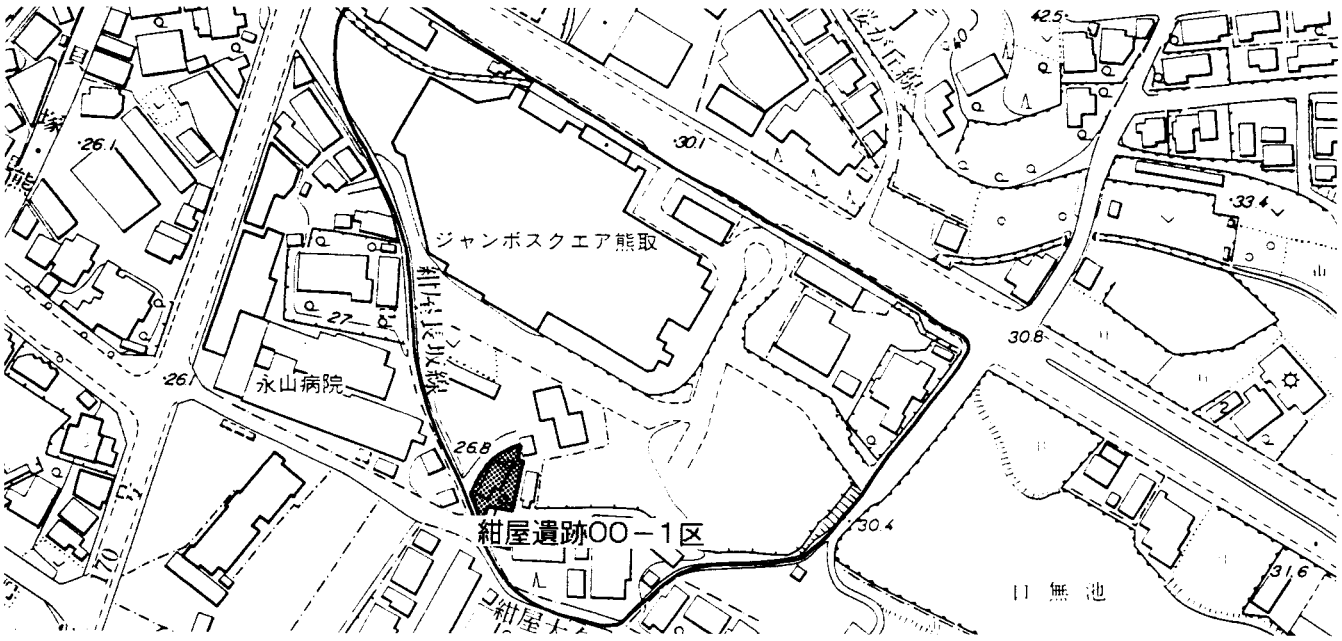
第３章　調査成果の概要

紺屋遺跡について

紺屋遺跡は紺屋地区の北端、口無池の西側に展開する。紺屋はJR熊取駅のある大久保と熊取町役場のある野田とを直線で結んだ中間に位置し、北は大阪外環状線国道170号線、南は旧外環状線国道170号線に挟まれた地域である。

JR熊取駅に近いなど現在は簡便な地域で、町内では最も平坦な地形の広がる地域のひとつで、古くからの埋蔵文化財の包蔵量が多い一帯と推定される。

昭和60年のスーパーマーケットの建設工事に伴って分布調査を実施した際、中世遺物を中心とする埋蔵文化財を検出し、包蔵地として周知されるに至った。平成９年には遺跡の西端部にある私立病院の病棟建設に伴って確認調査を実施し、古代の土器片とそれを含む流路を検出したため、小規模ながら初めて本調査を実施した。調査では10世紀を中心とした平安期の土器片を検出し、熊取町の発掘調査上で特異な状況をみせた。流路は当初自然河川的なものと考えられたが、その後の考察から人工的に開削された幅10mにも達する溝的なものと考えられている。



第１節　紺屋遺跡00－１区の調査

調　査　地　紺屋一丁目116

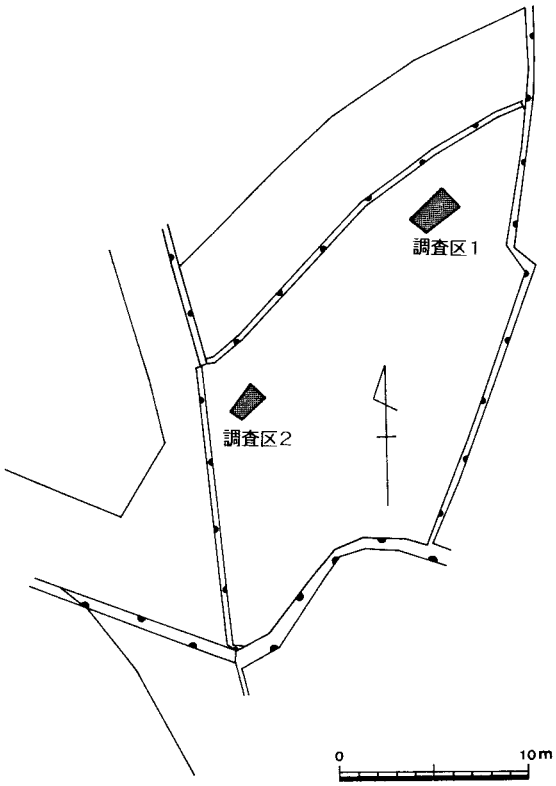
調 査 期 間　平成13年１月16日

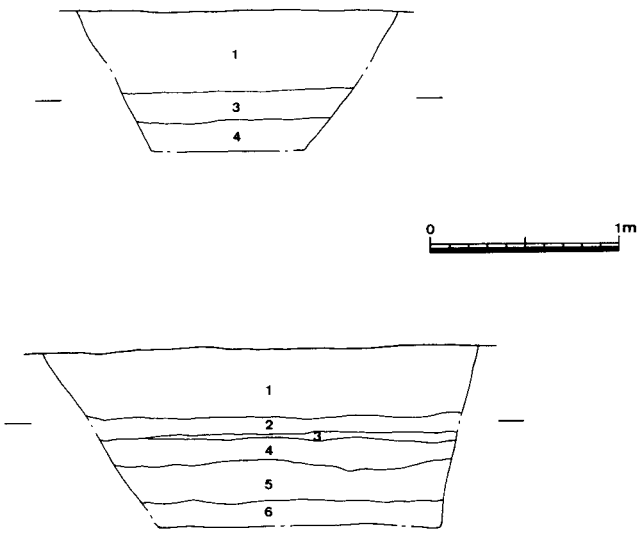
位置と環境

申請地は紺屋遺跡の南端に位置し、私立病院に隣接する宅地である。

調査内容

調査は2ヵ所の調査区を設定して機械掘削によって実施した。両調査区ともGLより0.5m下まで現代の造成土(客土)がある。その下に層厚約0.1mの旧耕作土と0.15m程度の整地土があり、GL下-0.75m以下に中世の包含層と同種の層が観られる。この層からは遺物は検出されなかった。地山はさらに下にあって検出に至らなかった。埋蔵文化財は検出しなかったが、今回の工事によって、GL-0.75m以下の層が破壊されることがないため、一応埋没保存とし調査を終了した。





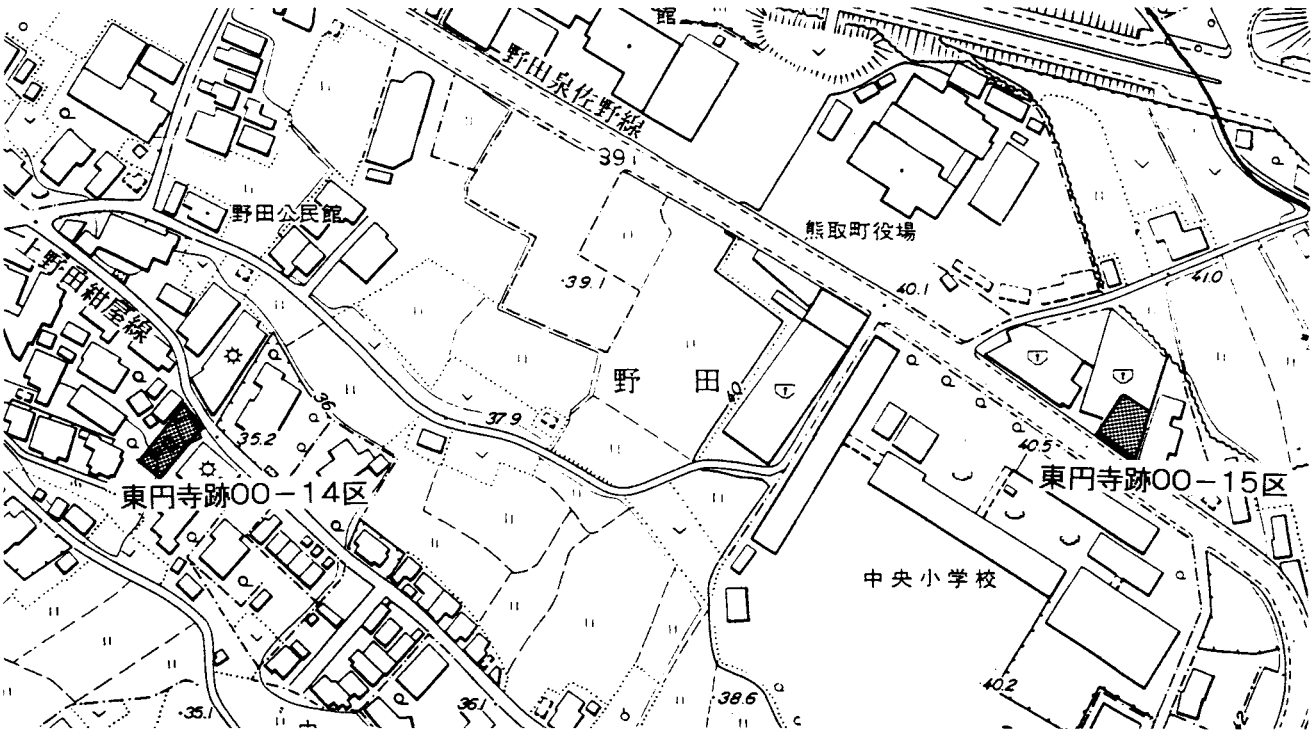
1. 7.5YR 7/8 黄橙色(旧造成時客土)
2. 10 YR 2/1 黒色 砂質土(焼土)
3. 2.5Y 5/1 黄灰色 粘質土(近現代耕作土)
4. 10 YR 6/2 灰黄褐色 粘質土(近現代耕作土)
5. 10 YR 7/2 にぶい黄橙色 粘質土
6. 10 YR 5/1 褐灰色 粘質土(遺構埋土系包含層)

小　　結

遺物を検出しなかったものの、包含層らしき6土層を検出した。これは平成8年度に今回の調査地点の西側に存在する私立病院の病棟建設にともなって実施した紺屋遺跡96-1区の調査で10世紀頃の土師器を検出した溝状遺構ＳＤ-０１の埋土に類似している。その時の調査では、その黒褐色の粘質土の埋土にはほとんど土器類が含まれていなかったが、細心の注意を払って精査した際にようやく蛸壷などの古代後期の土器の検出をみた経緯がある。

東円寺跡について

位置と環境　東円寺は、野田地区の熊取町役場の南側一帯にあったとされる寺院跡である。文献では元来「東曜寺」と称していたとされる。これまでの発掘調査では平安時代末期頃と考えられている軒丸・軒平瓦が出土したのをはじめ、瓦器、土師器に加えて古代の須恵器や縄文時代の石器など多くの遺物が出土しており、複合遺跡としての性格を呈している。今日まで確実に寺院と判る遺構は検出されていないため、伽藍配置等は全く不明である。



第２節　東円寺跡00－14区の調査

位置と環境

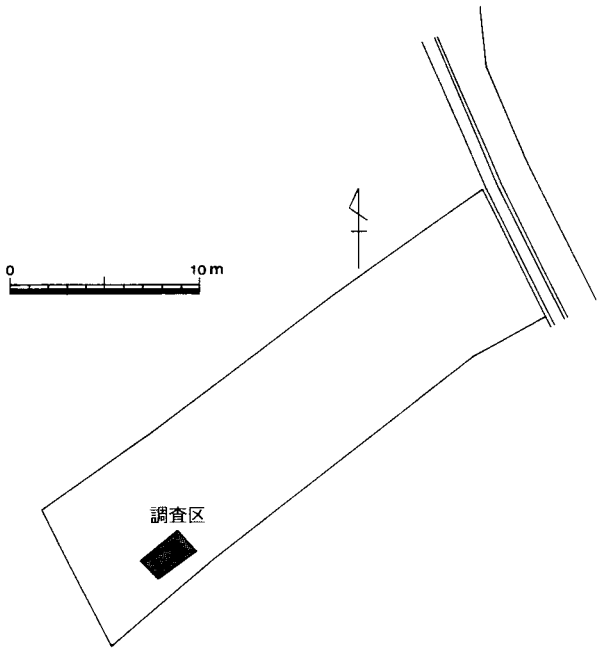
調査地点は野田集落の只中にあり、古くからの大きな屋敷が多い平坦な場所である。地図上では、熊取町役場からまっすぐ南方向に下がった大字「大門」に近い。周辺ではこれまで幾度と確認調査を実施しており、多くの瓦器や瓦片と遺構を検出している。中でも平成12年、今回の西隣接地における個人住宅建設に伴う確認調査(東円寺跡00-5区)では、１ヵ所のトレンチ内より859点にも及ぶ遺物を検出した。このうち瓦器片が518点と多数を占め、さらに東円寺軒丸瓦片や白磁片を出土し、平安末期から鎌倉時代中期頃までの僅かな期間に栄えたと考えられる旧東円寺と深い関わりがある場所ではないかと思わる。今回の調査地点はその東隣である。

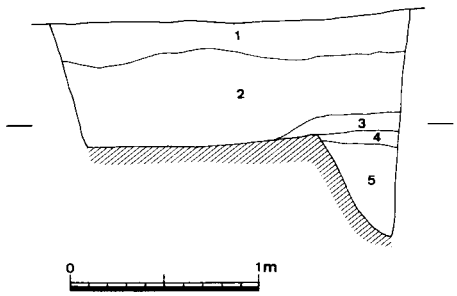
調　査　地　**野田二丁目2384-1**

調 査 期 間　**平成13年２月14日**

調 査 内 容

工事は個人住宅建替えにおける新築で、図のように調査区を設定して、機械掘削を実施した。GL-0.2mまでは撹乱されている。その下に層厚0.5m程度の近代～近世の整地土が存在し、以下は黄褐色粘質土の地山である。このGL-0.7mの地山面には井戸跡の一部と思われる土壙ＳＥ-０１を検出した。埋土は10YR6／1の砂質土で、遺構が深く規模は確認できなかった。掘削除去土および埋土から遺物は一切検出しなかった。





東円寺跡00-14区 調査区東壁

1. 2.5Y　3/1 黒褐色 砂質土(旧造成時客土)
2. 2.5Y　4/2 暗灰黄色 砂質土 近世～近代の造成客
3. 2.5Y　5/2 暗灰黄色 砂質土 2層と類似
4. 2.5Y　7/3 灰黄色 砂質土 ＳＥ-０１埋土
5. 10 YR　6/1 褐灰色 砂質土 ＳＥ-０１埋土

小　　結

平成12年東円寺跡00-5区のような遺物は確認できなかったが、井戸跡のような土壙が検出でき、東円寺跡00-5区の遺物と併せてこの付近に平安～鎌倉期の建物があった可能性は高い。旧東円寺との関連については確定的な物証は得られなかった。

第３節　東円寺跡00－15区の調査

調　査　地　野田一丁目2156-８

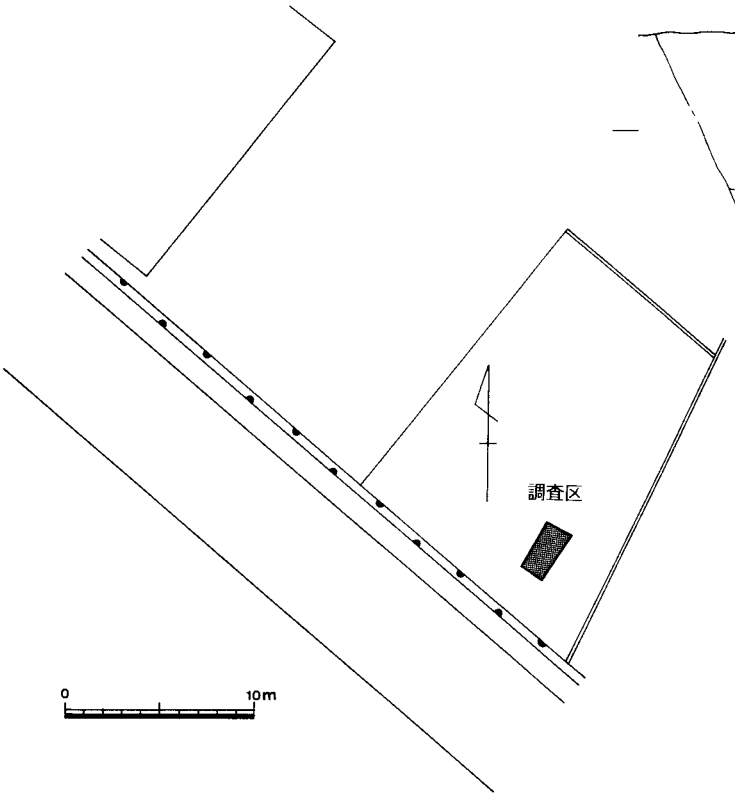
調 査 期 間　平成13年３月28日

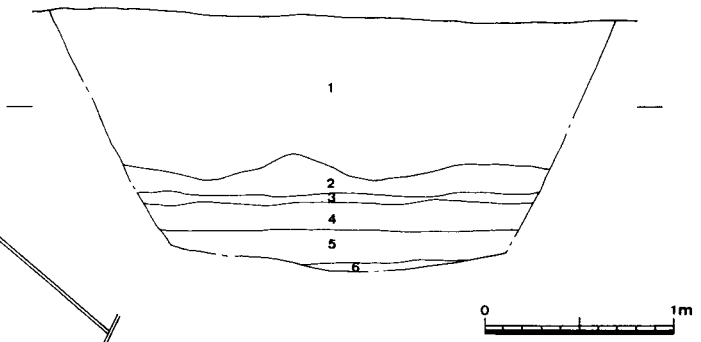
位置と環境

調査地点は東円寺跡の南東に位置し、熊取町役場の東、熊取町立中央小学校の北に面している。小学校では平成５年度の東円寺跡93-1区の調査で分厚い中世期の包含層と多くの遺物を検出している。また平成12年度には小学校とは逆方向の調査地点の北側の低丘陵における宅地開発で確認調査を実施したが、埋蔵文化財は一切検出しなかった。

調査内容

調査は2ヵ所の調査区を設定して機械掘削によって実施した。GL下-0.6mまで旧建物建設時のバラスによって盛土されており、さらに層厚0.2mの整地土がある。GL-0.8m以下に中世の包含層が3層観られた。目立った遺物を検出しなかったが、今回の工事ではこれらの層は保護されるため、埋没保存とした。





東円寺跡00-15区 調査区東壁

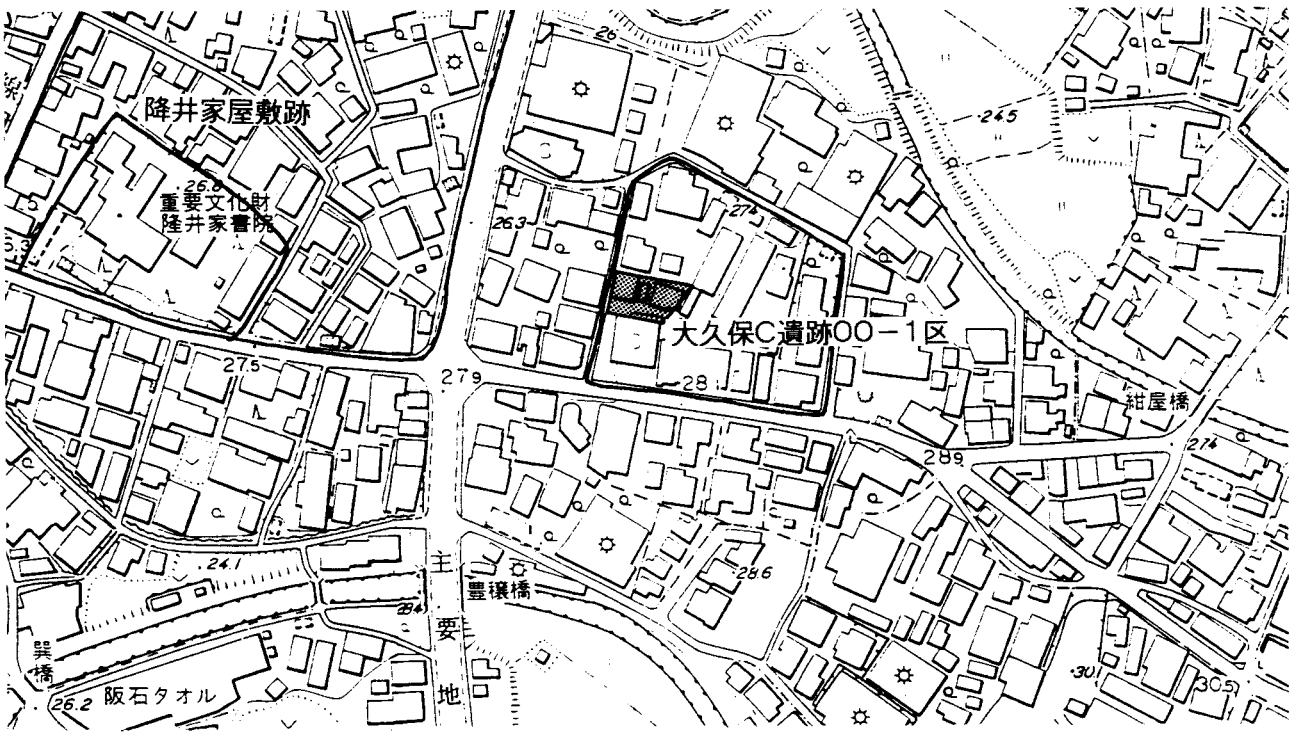
1. 7.5YR 5/8 明褐色 砂質土(旧造成時客土:バラス)
2. N 3/ 暗灰色 砂質土 近現代耕作土
3. N 6/ 灰色 砂質土 近現代耕作土
4. 2.5Y 7/4 浅黄色 粘質土(中世包含層)
5. 10 YR 6/1 褐灰色 砂質土(中世包含層)
6. 10 YR 6/3 にぶい黄橙色 砂質土(中世包含層)

小　　結

目立った遺物こそなかったが、中世の包含層が厚く観られ、南面する小学校での東円寺跡93-1区の調査結果に共通点がみられた。93-1区では包含層から比較的多くの遺物を検出したものの、遺構については旧東円寺につながるものはなく、中世の耕作跡が検出されたにとどまった。個人住宅という小規模の開発ため、確認調査も地山面を検出するには至らず、遺構の存在は不明であった。

大久保Ｃ遺跡について

大久保Ｃ遺跡はJR熊取駅前に展開する大久保地区では最も東南端に位置している。重要文化財降井家書院と、その東方に並ぶ重要文化財中家住宅の中間に位置する。現在は比較的古い工場や住宅が狭い路地沿いに並ぶ街並みを見せている。このことからもこの地域は重要文化財降井家書院周辺の大久保集落と同様かなり古くから安定した台地上の平坦地に集落が営まれてきたものと思われる。熊取町には他に駅前区画整理事業で大量の古代土師器を出土した大久保Ｅ遺跡や大久保Ｂ遺跡があるが、大久保Ｃ遺跡からはこれまで瓦器破片を中心とする中世遺物を多く出土しており、それらの駅前の大久保遺跡とは性格が異なっているといえる。またこの遺跡では平成９年に個人住宅の建設に伴って確認調査を実施し、中世の包含層と柱穴らしきピットなど遺構を検出している。今回の調査地点はその北隣地である。



第４節　大久保Ｃ遺跡00－１区の調査

調　査　地　　大久保東一丁目34-１他２筆

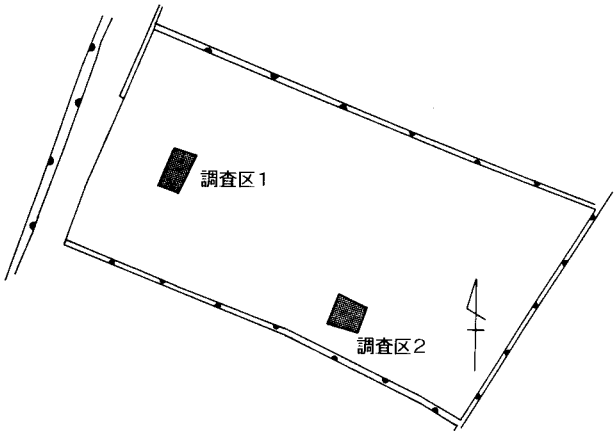
調 査 期 間　　平成13年２月27日

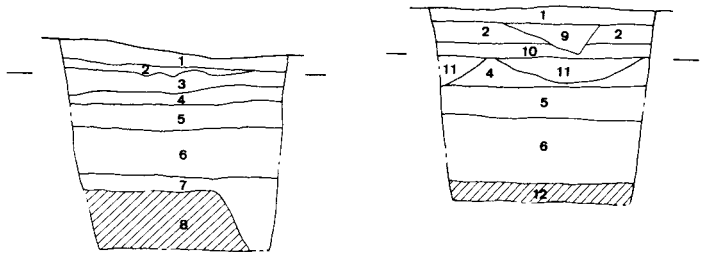
位置と環境

調査地点は遺跡の中央部東寄りに位置している。南隣接地では個人住宅建設に伴って大久保Ｃ遺跡97-1区の調査を実施し、中世期の柱穴と遺物を検出している。周囲を完全に住宅に囲まれた狭い街路の一角である。

調査内容

調査は2ヵ所の調査区を設定して人力掘削によって実施した。両調査区ともGLより1.1m下まで掘削を行った。GL-0.15mまで現代の造成土(客土)がある。その下に層厚約0.15m程度の江戸期の整地土があり、GL-0.4m以下に層厚0.3～0.4mの中世包含層が観られる。この層からは遺物は検出されなかった。GL-0.7m以下は地山である。この地山検出面に溝ＳＤ-０１を検出した。この遺構からは遺物等は検出しなかった。この遺構は人為的であることは明白であったが、時代の特定には至らなかった。おそらく中世期もしくは古代後期の所産ではないか。今回の工事によって、GL-0.4m以下の層が破壊されることがないため、埋没保存とし調査を終了した。





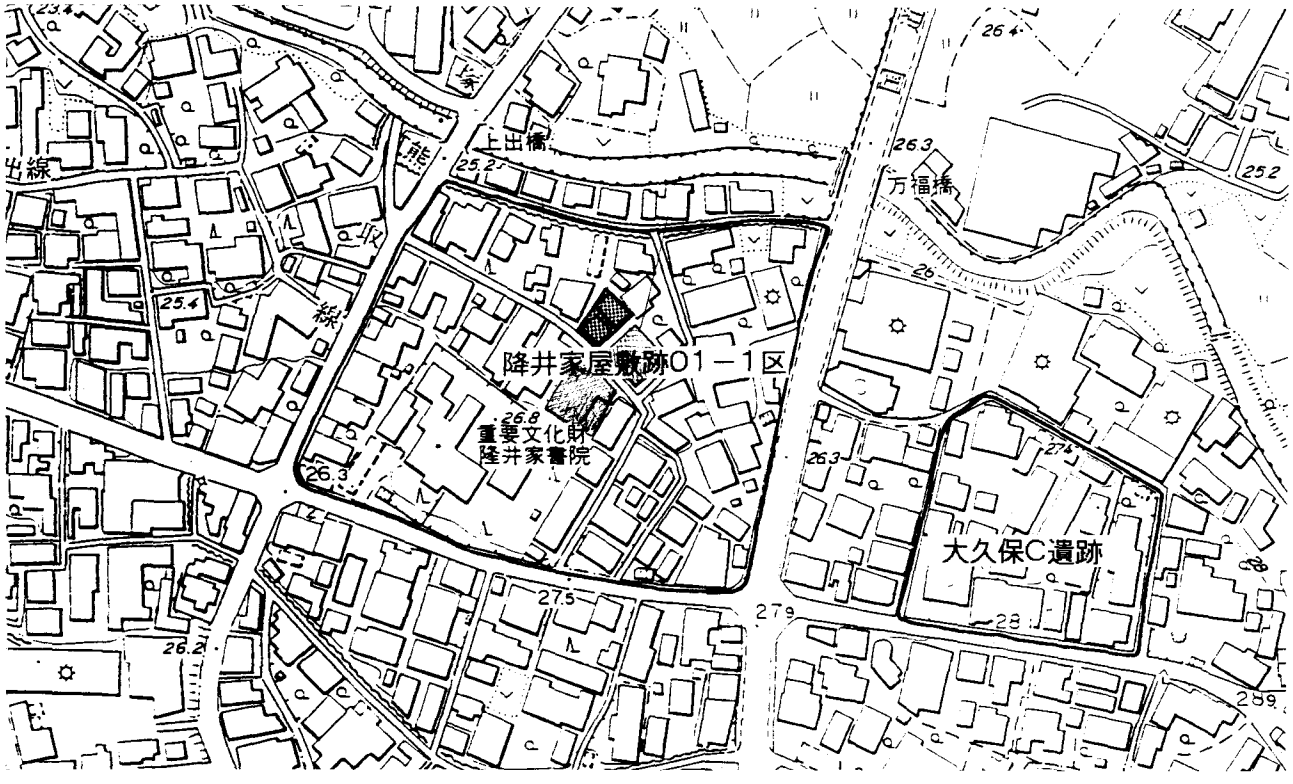
大久保Ｃ遺跡00-１区

1. 10YR 4/4 褐色 砂質土(旧造成時客土)
2. 10YR 2/1 黒色 砂質土(旧造成時客土)
3. 10YR 6/4 にぶい黄橙色 砂質土 近世耕作系
4. 2.5Y 6/2 灰黄色 砂質土 近世耕作系
5. 2.5Y 7/2 灰黄色 砂質土 中世耕作系包含層
6. 10YR 6/1 褐灰色 砂質土 中世耕作系包含層
7. 10YR 7/2 にぶい黄橙色 中世遺構埋土
8. 2.5Y 8/3 淡黄色 砂質土 地山

小　　結

遺物を検出しなかったものの、包含層と溝状遺構を検出した。中世包含層と遺構の検出状況は平成９年度の大久保Ｃ遺跡97-1区の調査結果と酷似している。97-1区では４基の柱穴を検出しており、今回の溝状遺構と併せて、この調査地点付近に掘立て柱建物を中心に溝等を配置した集落遺構が存在している可能性が極めて高いことが判った。その遺構の年代は古代～中世が考えられるが、97-1区の柱穴の規模が大きいことからすると、古代期の遺構の可能性もある。大久保Ｃ遺跡の北方には平安期の遺構・遺物を出した紺屋遺跡もあり、関連が究明される日も近いと思われる。周辺地での今後の開発に注意したい。

降井家屋敷跡について



この遺跡は文字どおり重要文化財降井家書院の降井家周辺に展開し、かつての降井家の広大な屋敷地を示す遺跡である。降井家は熊取町では最も名高い旧家の一つで、東方約500mに存在する重要文化財中家住宅の中家とは親戚関係にあるとされる。明確な記録にこそないものの古代から代々熊取地域に住んだ一族であり、熊取に隣接する泉佐野市の日根庄に九条家が荘園を営んでいた時期には、熊取地域で何某の荘園体制の下で農耕に従事し、徐々に勢力を蓄えたものと思われる。16世紀前後には管領細川氏の被官であるとされる行松氏が熊取地域一帯を治めたとされるが、細川氏の没落とともに行松氏が衰亡したのを契機に中氏・降井氏ともに大幅に土地を集積し、戦国期には信長・秀吉と交戦して一時衰退したものの、江戸期になると再び隆盛を極め、岸和田藩下で七人庄屋の筆頭格を勤めるほどの名家となった。現在の降井家の外北西側で、1985(昭和60)年に大阪府教育委員会が、1986(昭和61)年に熊取町教育委員会が小規模な調査を実施したが、その際には江戸後期の多量の陶磁器と同時期の屋敷地の区画をするものと推定される溝を検出している。その後は周辺地で個人住宅建設に伴う小規模な確認調査を数度実施しているが、目立った成果は挙がっていない。

第５節　降井家屋敷跡01－１区の調査

調　査　地　大久保中二丁目２-５

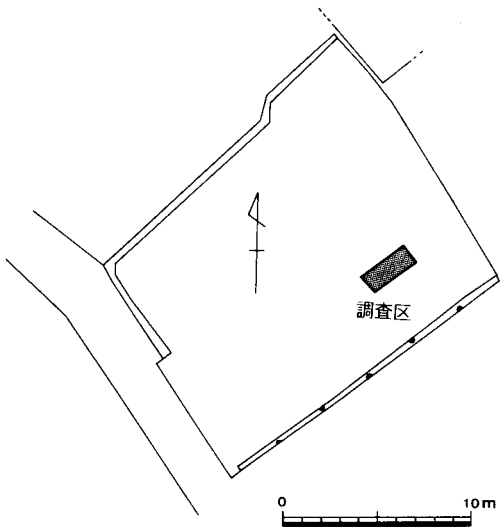
調査期間　平成13年５月14日

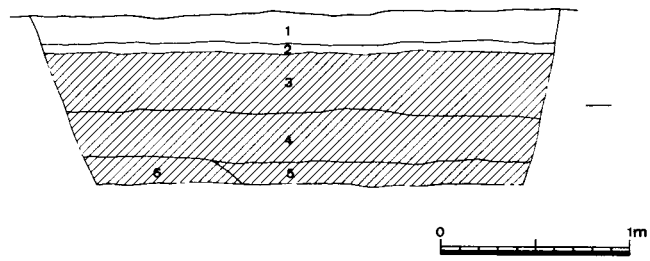
位置と環境

調査地点は重要文化財降井家書院の北30mに位置し、住吉川の左岸にあたる。周辺は比較的小規模の民家が密集している。北西約30mの地点で平成９年個人住宅建設に伴う確認調査を実施し、埋桶等の近世の遺構を検出している。今回の調査地点は住吉川に向かって比較的急な下り傾斜地になっている。

調査内容

GL直下に旧建物構築時の造成土が約0.2m存在している。以下には上面を大きく削られた砂の地山面が露出する。以下は礫や砂の地山で埋蔵文化財は一切存在しない。





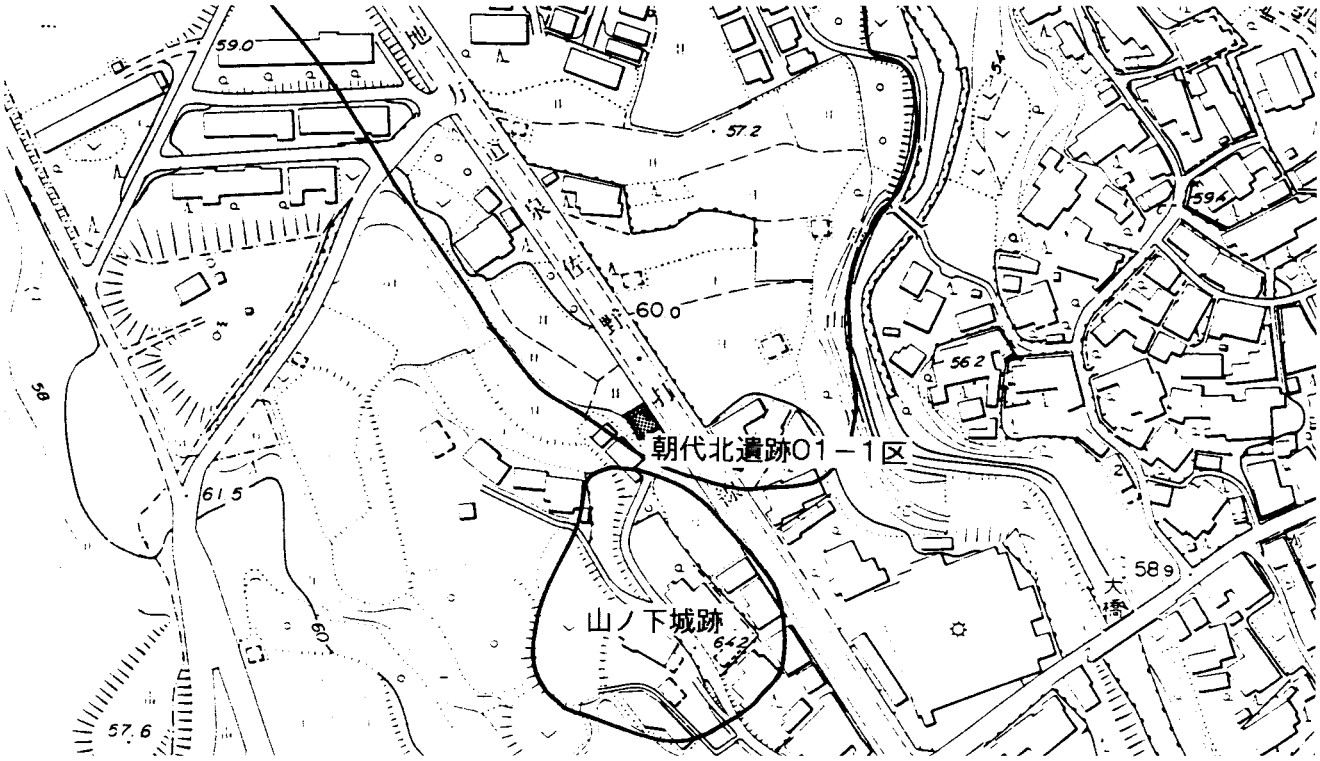
降井家屋敷跡01-１区

1. 旧造成時客土
2. 2.5Y　3/1 黒褐色 砂質土
3. 5Y　7/2 灰白色 砂
4. 2.5Y　7/3 浅黄色 粗砂
5. 10YR 7/6 明黄褐色 砂(粘土混)
6. 2.5Y　6/1 黄灰色 砂

小　　結

97-1区とは異なり、旧遺構面は既に完全に削平されてしまったようである。また調査地点の大部分が傾斜地であるため、遺構が元々少なかったのかもしれない。

朝代北遺跡について



朝代北遺跡は熊取町の中南部、近年大阪体育大学が設立された南部の丘陵地帯の北麓にあたる朝代集落の北側一帯である。本町には南北方向に西から雨山川、和田川、大井出川、見出川の４河川が北流しているが、本遺跡のある低地は、４河川のうち最西の雨山川の左岸流域に南北に長く展開している。この流域には、住友電気工業熊取製作所や京都大学原子炉実験所などの大規模な施設が建設されている。平成９年度のコンビニエンスストアの建設に伴う試掘調査で初めて中世の包含層が検出されて、熊取町第40番目の「朝代北遺跡」として周知され、以後数度にわたる確認調査等でさらにその範囲を拡大した。

第６節　朝代北遺跡01－１区の調査

調　査　地　　朝代西三丁目761-３

調 査 期 間　　平成13年10月16～17日

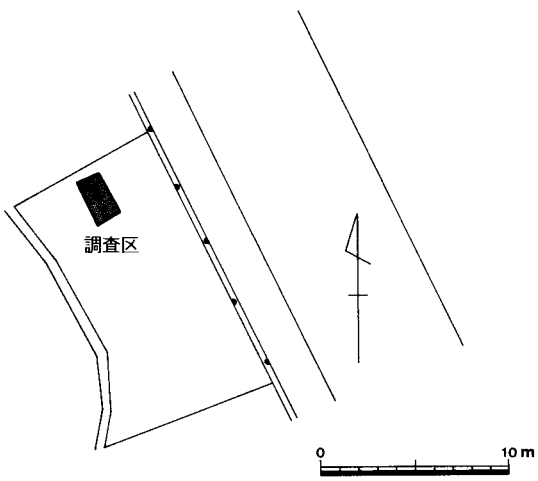
位置と環境

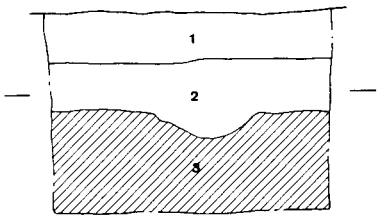
JR熊取駅方向から南へ主要地方道泉佐野・打田線を下って、大阪体育大学に向かうと右手に京都大学原子炉実験場や企業の大規模施設が並んで見えるが、この東一帯が朝代北遺跡で、調査地点はこの遺跡の最南端である。すぐ南側には山ノ下城跡と呼称

する中世の遺跡が存在するが、山ノ下城跡では現在まで一切遺構•遺物は発見されていない。山ノ下城跡が中世の山城跡とするなら、調査地点はその裾部にあたるため、城郭の一部に相当する可能性もある。周辺地域は田畑が広がっていたが、近年ミニ開発や飲食店の建設が盛んに行われ、道路面に合わせるよう盛土による造成が実施されるなどしたため、旧状を大きく失った住宅地になっている。

調査内容

工事は個人住宅の新築工事で、図のように調査区を設定して、機械掘削による確認調査を実施した。現地表面下-0.5m掘削すると黄褐色粘質土の地山まで到達した。壁面図に示したとおり、GL-0.25mまで旧建物に伴うバラスと、-0.5mまでの25cmの間は空缶と瓶を含む客土が観られる。地山面は削平を受けており、遺構や遺物は一切なかった。





朝代北遺跡01-1区 調査区南壁

1. 10YR 8/3 浅黄橙色 砂質土(旧造成時客土)

2. 7.5YR 3/4 暗褐色 瓦礫(旧造成時客土)

3. 10YR 8/6 黄橙色 砂質土 地山

小　　結

残念ながら目立った成果は挙がらなかった。主要地方道泉佐野•打田線の南側で調査が行われたのは今回が初めてであり、包含層が存在していない状況は、過去の北側の調査成果とは異なっていた。朝代北遺跡が発見されたのは平成10年度であり、以来合計約6件の調査を実施しているが、主要地方道泉佐野•打田線の北側では今のところ瓦器や土師器など中世の土器を含む包含層が必出しているにとどまっており、建物や溝など遺構が検出されたことはない。

第4章　まとめ

以上、紺屋遺跡、東円寺跡、大久保Ｃ遺跡、降井家屋敷跡、朝代北遺跡、５遺跡６件の国庫補助事業に伴う発掘調査成果を報告した。

紺屋遺跡

調査では平成８年度に隣接地の私立病院で実施した発掘調査した際に検出した遺構の溝ＳＤ-０１の埋土とほぼ同じものと考えられる黒褐色土層を検出した。今回その層から遺物の検出はなかったが、当遺跡の特徴を裏付ける発見であったと評価できる。平成８年度の紺屋96-１区の調査でこの溝状の遺構からは10世紀頃の土器群を検出していることから、いずれ周辺で同時期の集落遺構などが発見される可能性がある。

東円寺跡

00-14区の西隣接地は、昨年度大量の瓦器や白磁、東円寺軒丸瓦の一部を出土した東円寺跡00-5区であり埋蔵文化財の検出が期待されたが、遺物・遺構の検出はなかった。

しかし東円寺跡00-5区の土層とはほぼ同様であり、かつての中世当時の生活面は、江戸時代以降農耕開発で削平を受け、溝などの深い遺構のみが残され、そこに中世の遺物が埋蔵されている状況である。

00-15区は、南向かいの中央小学校での平成５年度の東円寺93-2区の調査成果とほぼ一致する土層を検出した。中世に脈々と農耕が行われたことを物語るものであろう。

大久保Ｃ遺跡

97-1区同様、柱穴らしきピットを検出するなど、周囲一帯に中世の建物跡などの遺構が存在している可能性がさらに高くなった。今後付近での開発に十分注意するとともに、遺跡の性格を究明していきたい。

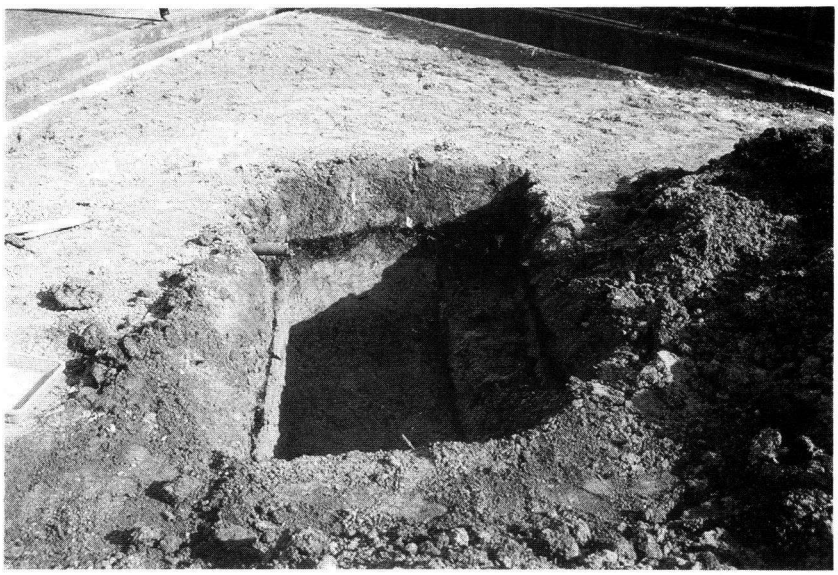
降井家屋敷跡

今回の01-1区の調査は北側の住吉川に近いこともあって、河岸地域特有の砂礫を含む地山が過去の開発で大きく切取られて整地を受けてしまっている状況が観られた。降井家の屋敷跡の範囲内であったことを示す遺物なども皆無であった。

朝代北遺跡

朝代北遺跡は目下中世包含層のみ確認するに留まっている遺跡である。国庫補助対象となる個人住宅建設以外の民間開発にともなう数件の試掘調査でも中世遺物包含層を検出し、遺跡としての範囲は比較的大きなものとなっている。いずれ中世期の建物跡が検出されることになるだろう。

写真図版一



紺屋遺跡00-1区　調査区1全景

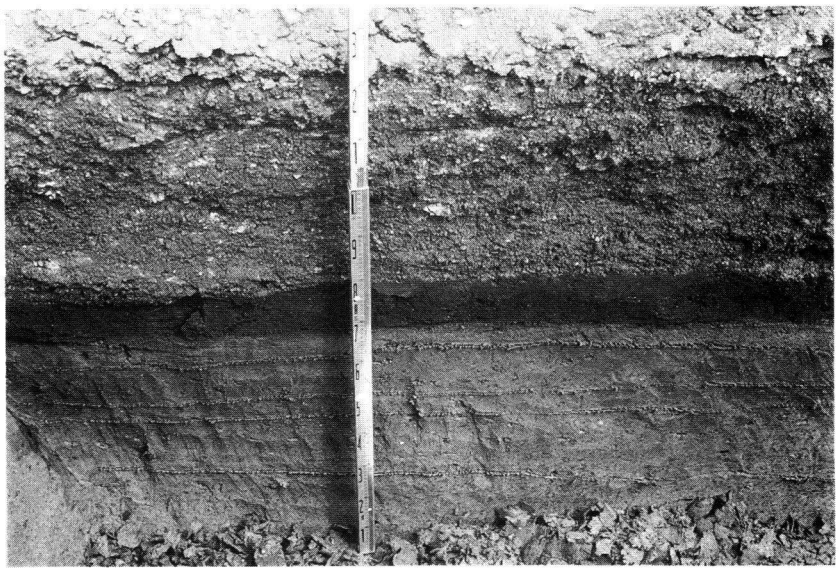
紺屋遺跡00-1区　調査区1壁面（北壁）

写真図版二

東円寺跡00-14区　調査区全景

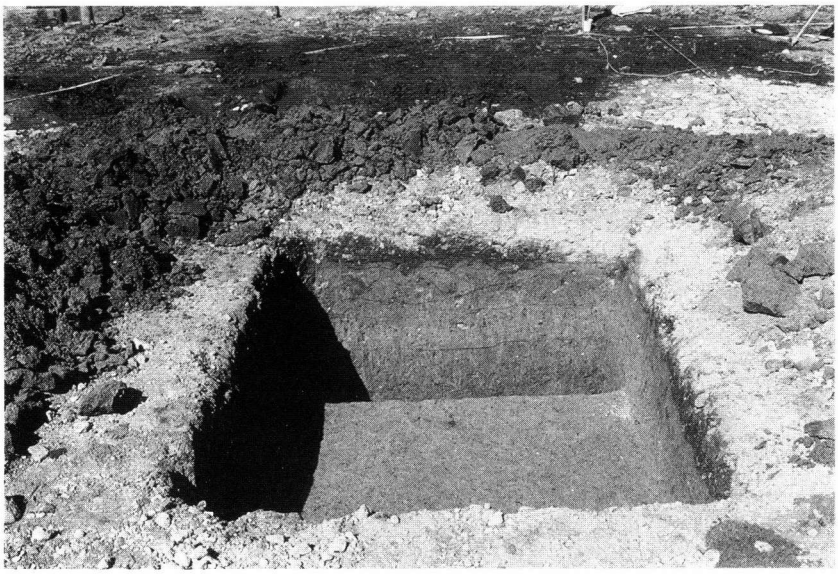
東円寺跡00-14区　調査区壁面（北壁）

東円寺跡00-15区　調査区全景



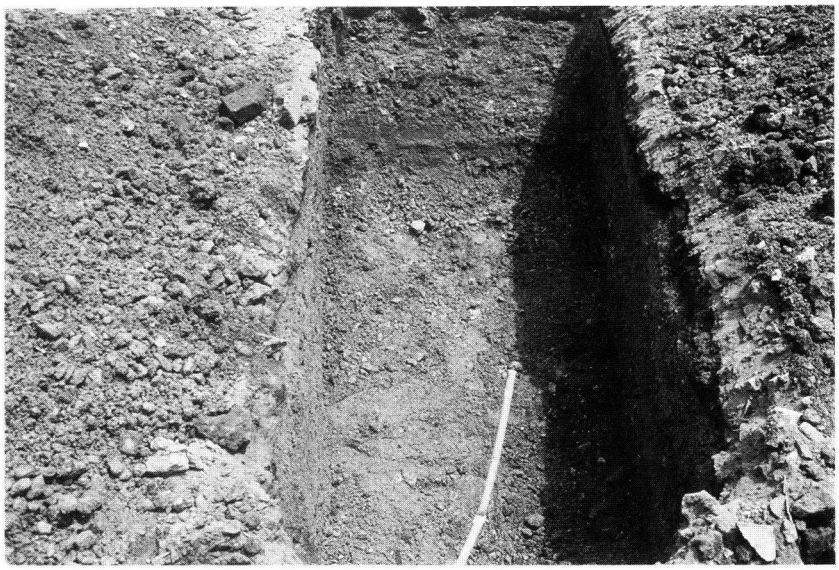
東円寺跡00-15区　調査区壁面（東壁）

写真図版四



大久保Ｃ遺跡00-１区　調査区２全景

大久保Ｃ遺跡00-１区　調査区２壁面（北壁）



降井家屋敷跡01-1区　調査区全景

降井家屋敷跡01-1区　調査区壁面（北壁）

写真図版六

朝代北遺跡01-1区　調査区全景

朝代北遺跡01-1区　調査区壁面（北壁）

報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	熊取町遺跡群　発掘調査概要報告書
巻次	XVI
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第37集
編集者名	前川　淳
編集機関	熊取町教育委員会
所在地	〒590-0495　大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号
発行年月日	西暦　2002年3月

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
こんやいせき 紺屋遺跡 00－1区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうこんや 熊取町紺屋	27361	~~1~~	34° 24′ 01″	135° 20′ 58″	20010116 20010116	9.0	個人専用住宅建設
とうえんじあと 東円寺跡 00－14区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうのだ 熊取町野田	27361	6	34° 23′ 50″	135° 21′ 20″	20010214 20010214	9.0	個人専用住宅建設
とうえんじあと 東円寺跡 00－15区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうのだ 熊取町野田	27361	6	34° 23′ 49″	135° 21′ 33″	20010328 20010328	8.0	個人専用住宅建設
おおくぼCいせき 大久保C遺跡 00－1区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうおおくぼ 熊取町大久保	27361	~~1~~	34° 23′ 54″	135° 20′ 53″	20010227 20010227	6.0	個人専用住宅建設
ふるいけやしきあと 降井家屋敷跡 01－1区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうおおくぼ 熊取町大久保	27361	~~1~~	34° 23′ 57″	135° 20′ 49″	20010514 20010514	3.0	個人専用住宅建設
あさしろきたいせき 朝代北遺跡 01－1区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうあさしろひがし 熊取町朝代東	27361	40	34° 22′ 58″	135° 21′ 16″	~~20010216~~ ~~20010217~~ イキ	4.0	個人専用住宅建設

所収遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
紺屋遺跡　00－1区	散布地	平安～室町時代	なし	なし	層：平安～室町時代
東円寺跡　00－14区	寺院跡	縄文～江戸時代	土壙	なし	層：鎌倉～室町時代
東円寺跡　00－15区	寺院跡	縄文～江戸時代	なし	なし	層：鎌倉～室町時代
大久保C遺跡00－1区	散布地	鎌倉～室町時代	溝	なし	層：鎌倉～室町時代
降井家屋敷跡01－1区	屋敷跡	室町～江戸時代	なし	なし	なし
朝代北遺跡　01－1区	散布地	鎌倉～室町時代	なし	なし	なし

熊取町埋蔵文化財調査報告第37集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XVI

発行日　平成14年3月31日
編集・発行　熊取町教育委員会
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号
印刷　㈲山村印刷所